【都市と美術研究所】2024年10月22日（火）研究会 発表要旨

山水都市 漢陽・ソウルの都市空間づくり

Urban Space Creation in the Mountain and Water City of Hanyang · Seoul

慎重進(シン・ジュンジン)

成均館大学校建築学科教授; 早稲田大学 総合研究機構 都市と美術研究所 招聘研究員

SHIN Joongjin

Professor in the Department of Architecture at Sungkyunkwan University;

Visiting Researcher at City and Art Institute of Waseda University

韓国の首都ソウルは600年以上の歴史を持つが、近代化過程は100年にも満たない。朝鮮戦争後の1960年代に本格的な都市空間計画の近代化が始まった。その始まりは遅かったものの、経済と物理的な側面で急速な発展と変化を遂げた。しかし、高度な圧縮成長に伴う成長痛により、ソウルは多くの痛みと損失を経験した。そして今日まで従来の近代化過程における問題の模索と回復、そしてそれを踏まえて新たなソウルを作るために多方面での努力が行われている。

本発表では新たなソウルへの都市づくりの糸口として、そのルーツといえる朝鮮王朝の都、漢陽に着目した。1394年、山と水を基盤に、風水地理説と陰陽五行説の思想に基づく「山水都市」漢陽が形成される。以降、時代とともに多様な状況の中で破壊と修復、復元が繰り返されてきた。こうした都市空間づくりの歴史がどのように今日のソウルに蓄積されているかを探ることで、社会的・政治的に困難な時代を経てもなお、この都市が一貫して信頼と希望を与え続けてきた都市づくりの努力や価値資源を紹介する。

未来のソウル都市空間づくりの解決策を600年前の漢陽に見出すことは、一見矛盾しているように見えるかもしれない。しかし、現代都市は未来に向けて作られるべきであり、そのためには歴史的な空間文化や生活、自然を尊重した実験的なアプローチが新しい都市計画に求められている。2010年代に入り、都市計画の再編と新たな都市空間づくりが本格化した。その試みはまだ始まったばかりである。本発表では、漢陽から学び、現代ソウルが未来社会に対応するための賢明な都市空間づくりの方向性について考察する。

略歴

1960年ソウル生まれ。成均館大学校建築学科卒業。同大学院修士課程修了。早稲田大学理工学部建築学科博士課程修了。1983.1~1992.6 韓国三友建築設計勤務。1994.4~1998.2 早稲田大学理工学部助手及び客員講師。1998年~成均館大学校建築学科教授。2000年~ソウル市都市、建築、公園関連審議会委員、そして50以上のソウル都市建築づくり関連プロジェクトの総括計画家（Master Planner）として活動。